

教育研究業績書

2015

2014. 9. 24 現在

井上松永 (ウィマラ)

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者 名 (共著の場合のみ記入)	該当 頁数
(著書) 『呼吸による気づきの教え：パーリ経典“アーナーパーナサティ・スッタ詳解』	単著	2006年2月	佼成出版社	ヴィパッサナー瞑想の根本経典を現代的に解説したもの。		230
『人生で大切な五つの仕事：スピリチュアルケアと仏教の未来』	単著	2006年10月	春秋社	スピリチュアルケアとは何かを事例と理論から詳解し、仏教を以下に現代社会に生かしてゆけるかを考察したパイオニアの著作		200
『看護と生老病死』	単著	2010年8月	三輪書店	仏教心理学の視点から、看護臨床における困難な事例を分析したもの。第1部では瞑想を中心として現代仏教心理学のあり方を解説している。		237
『呼吸の事典』、『呼吸を感じるエクササイズ』	共著	2006年1月	朝倉書店	呼吸を自覚するためのエクササイズを、コミュニケーション論を含めて紹介。	有田秀穂	12
『高野山大学選書第3巻』 北米の仏教ホスピスプロジェクト	共著	2006年9月	『高野山大学選書第3巻』 小学館スクウェア	サンフランシスコ禅センターが開発し運営しているホスピス・ボランティア教育プロジェクトを取材し紹介したもの。	谷川泰教	13
『スピリチュアリティとは何か?』、 『スピリチュアルケア基礎論』	共著	2007年3月	ナカニシヤ書店	精神分析と仏教瞑想を基盤としたスピリチュアルケアの理論的構築を試みたもの	尾崎真奈美、 奥健夫	24
『瞑想脳を開く』	共著	2007年7月	佼成出版社	セロトニン研究の権威である有田秀穂教授とのEBM共同研究の報告書。瞑想がいかに心のつながりと健康をもたらすかを科学的に探求したもの。	有田秀穂	170
『セロトニントレーニング』	共著	2008年8月	Mcpres	セロトニン神経を活性化させるための呼吸法と瞑想法の紹介	有田秀穂/井上ウィマラ/鈴木光彦 さむらみか/中谷康司/関山タマリ 宇新軍/豊川治樹/菊本り子	11
『スピリチュアルケアへのガイド』	共著	2009年4月	青海社	スピリチュアルケアに関する実践的なガイドブック。キリスト教をベースとしてスピリチュアルケアを開拓する窪寺俊之氏との共著。	原久美子/REINA 窪寺俊之	67
『日本人と「死の準備」』	共著	2009年5月	角川SSC新書	仏教瞑想をベースして、自らの市にどのように備えるかについての講演記録。	山折智彦、柴田久美子、秋田光彦、 中村仁一、藤原明子、カール・ベッカー	12
『ケア従事者のための死生学』	共著	2010年9月	スーヴェルヒロカワ	『互いにケアし合う「悲嘆」という仕事』というタイトルで、悲嘆について心理	清水哲郎・ 島菌進編集	13
『仏教心理学キーワード事典』	編・著	2012年5月	春秋社	学的な臨床理論を紹介しながら解説した。	葛西賢太、加藤博巳	72
『ブッダのサイコセラピー』	単著	2009年5月	春秋社	精神科医であり仏教瞑想かでもあるM. エプスタインによる仏教瞑想と心理療法を橋渡しする革新的な著作の翻訳		331
『宗教と終末期医療』	共著	2009年12月	佼成出版社	第2章において、終末期医療におけるスピリチュアルケアの可能性について、仏教と子育てにおける母子関係を切り口に論じた。第5章のパネルディスカッションでも発言。	中央学術研究所編集、 林茂一郎、井上ウィマラ、 藤原明子、田中雅博	25
『モノ学の冒険』	共著	2009年12月	創元社	モノ学研究会の鎌田東二会長が編集者として、13人の著者たちがさまざまな角度からモノ学にアプローチした。第1部において「移行対象：内と外をつなぐモノ」を担当。対象関係論的視点から宗教アイコンや呼吸瞑想について分析した。	鎌田東二、松生歩、河合俊雄、 井上ウィマラ、島菌進、黒住真、 切通雅作、大西宏志、岡田美智男、 上林壮一郎、渡邊洋司、 藤井秀雪、近藤高弘	19
『講座スピリチュアル学第1巻スピリチュアルケア』 (学術論文)	共著	2014年9月	ピングネットプレス			16
『仏教からスピリチュアルケアへ』	単著	2006年5月	『トランスパーソナル学研究第8号』、 日本トランスパーソナル学会	仏教瞑想と心理療法をベースにしたスピリチュアルケアの可能性を論じたもの。		10
"From Buddhism to Spiritual Care"	単著	2006年5月	Kyoto 2006 Conference Self and no-self in Psychotherapy and Buddhism	仏教瞑想の洞察と慈悲の視点をベースにしてスピリチュアルケアを構築する試みを論じたもの。		6
『移行対象：内と外をつなぐモノ』	単著	2007年3月	『モノ学覚醒価値研究第1号』、	ウィニコットの移行対象についての概念を		10

『キューブラー・ロスの人生から学ぶスピリチュアリティのあり方』	単著	2008年1月	モノ学感覚価値研究会 『緩和ケア』、 青海社	ベースにして仏教瞑想で呼吸を見つめることの意味を論じたもの。スピリチュアリティのあり方について、キューブラー・ロスの人生と彼女が死の受容の5段階理論を見いだしていった軌跡を辿りながら考察した。	4
『五蘊と無我洞察におけるasmiの位相』	単著	2008年2月	『高野山大学論叢』	パーリ經典の相応部『長老相應』に納められた10経を対象として、そこ使われている無我洞察に関する定型的な文章表現を分析し、asmiという動詞によって表現される存在観念について考察した。	35
『「記憶、行為、関係」を現場に生かす』	単著	2008年5月	『緩和ケア』、 青海社	フロイト、ユングらの精神分析の実践的洞察を緩和ケアの臨床現場に生かすための新たな視点を提案した。	4
『小空経』における空の実践的構造	単著	2009年2月	『高野山大学論叢』	中部の『小空経』における実践構造を解明し、『気づきの確立に関する教え』におけるヴィパッサナーの実践構造と比較した研究。	16
『対象関係論と死生観』	単著	2009年7月	『臨床精神医学』	対象関係論による自我成立の過程を中心として、「私」という意識の構造から生と死を支える環境について考察した。	6
『子育て支援におけるスピリチュアリティの働き』	単著	2010年3月	『宗教研究第83巻』	NPO法人自然育児友の会が主催する2泊3日の親子合宿における取り組みをスピリチュアリティの視点から検討したものの。	2
『「小空経」における空のDevatanussatiに関する瞑想実践としての一考察』	単著	2010年3月	『印度学仏教学』	中部の『小空経』における実践構造を	6
『小空経における空の実践構造について』	単著	2011年12月	『パーリ学仏教文化学』 研究第58巻第2号』	六随念におけるDevatanussatiの実践について、自他の視点、瞑想実践の視点などから考察した。	15
Satipatthana-suttaiにおける内外について(その他)	単著	2013年12月	『パーリ学仏教文化学』第27号	ヴィパッサナーの視点から検討したもの。	19
『禅ホスピスの実際と教育訓練プログラム』	共著	2006年8月	『こころケア』、日総研	サンフランシスコ禅センターが開発し運営しているホスピス・ボランティア教育プロジェクトの解説。	9
『おじいちゃんの死：根源的欠損を埋めようとするたましいの行動』	単著	2007年3月	『緩和ケア』、 青海社	スピリチュアルケアに関わるようになった理由をふりかえるエッセー	2
『仏教看護の可能性』	単著	2007年7月	『大法輪』、大法輪閣	仏教的視点から看護を考える。藤腹明子氏とのリレー・トーク。	6
『ブッダの言葉、欲と迷いについて』	単著	2007年12月	『大法輪』、大法輪閣	欲と迷いに関する經典の言葉の解説。	3
『ブッダの修行と健康法』	単著	2008年8月	『大法輪』、大法輪閣	パーリ經典に見られるブッダの修行と瞑想法について紹介した。	3
『日本仏教と南方仏教の違い』	単著	2008年9月	『大法輪』、大法輪閣	日本仏教と南方仏教の違いについて、三宝帰依、修行の方法論、檀家制度の視点から考察した。	4
『見守りの器』	単著	2008年9月	『緩和ケア』、青海社	ウィニコットの子育てに関する洞察を照会しながら、緩和ケアにおける見守りの器となることの重要性を解説した。	5
『古くて新しい器』	単著	2009年1月	『緩和ケア』、青海社	仏教瞑想が西洋に伝わってマインドフルと呼ばれ、医療や福祉そして心理療法など多くの分野に活かされている。その最先端を緩和ケアの視点から開設した。	5
『息遣いとしてのスピリチュアリティ』	単著	2009年5月	『緩和ケア』、青海社	医療サイドのスピリチュアルペンを取り上げ、関係性の中における共感や需要のあり方を検討した。	5
『仏教にこそ期待できるスピリチュアルケアを』	単著	2009年9月	『寺門興隆』	緩和ケアにおける自己覚知の重要性を解説した。	2
『スピリチュアルケアとは仏教の実践』	単著	2009年10月	『寺門興隆』	スピリチュアルケアの歴史を概観し、中道の教えを活かしたスピリチュアルケアの可能性を考察した。	2
『看病しにくい者の5条件から学ぶ』	単著	2009年11月	『寺門興隆』	スッタニパータの『幸福経』をもとにケアのあり方について考察した。	2
『よき看護者となるための5条件に学ぶ』	単著	2009年12月	『寺門興隆』	律蔵に出てくる看病しにくい者の5条件についてスピリチュアルケアの視点から考察した。	2
『瞑想と作業療法との出会い：触れることが生み出すもの』	共著	2009年12月	『緩和ケア』、 青海社	律蔵に出てくる看護者としての5条件についてスピリチュアルケアの視点から考察した。	5
『慈しみの実践』	単著	2010年1月	『寺門興隆』	京都大学大学院医学研究科教授の山根寛氏との対談記事。	2
『人に寄り添う心』	単著	2010年2月	『寺門興隆』	四無量心の慈についてスピリチュアルケアの基本として考察した。	2
『瞑想と作業療法との出会い：手放すことと集うこと』	共著	2010年2月	『緩和ケア』、 青海社	四無量心の悲と喜についてスピリチュアルケアの視点から考察した。	5

村川治彦

『ありのままを見る』	単著	2010年3月	『寺門興隆』	四無量心の捨についてスピリチュアルケアの視点から考察した。	2
『世界における瞑想受容の潮流』	単著	2010年3月	『サンガジャパン』	西洋仏教における瞑想実践の幅広い受容形態を、心理療法から平和活動まで紹介し、将来日本に逆輸入される際のあり方を展望した。	10
『親が子に伝える心』	単著	2010年4月	『寺門興隆』	世代間伝達に関してユングの家族布置、ウィニコットの偽りの自己の視点から考察した。	2
『誰もが必要とし、誰もが実践できるスピリチュアルケア』	共著	2010年4月	『緩和ケア』、青海社	高野山大学名誉教授 前スピリチュアルケア学科教授の谷川泰教との対談記事。	5
『非言語コミュニケーション』	単著	2010年5月	『寺門興隆』	身口意の三業について非言語コミュニケーションの視点から考察した。	2
『自分という記憶』	単著	2010年6月	『寺門興隆』	記憶の役割について、仏教の「念」の修行の観点から考察した。	2
『目で、声で、触れる』	単著	2010年	『寺門興隆』	スピリチュアルケアにおけるふれあいの質について仏教の4つの滋養分の教えの視点から考察した。	2
『身体は自分のものか：悟りの第一条件』	単著	2010年8月	『寺門興隆』	仏教瞑想における悟りの第一条件である有身見の超越についてスピリチュアルケアの視点から考察した。	2
『戒禁取見を超える：悟りの第二条件』	単著	2010年9月	『寺門興隆』	仏教瞑想における悟りの第二条件である戒禁取見の超越について、社会宗教的儀礼の視点から考察した。	2
『悲しむ力と育む力』	共著	2010年9月	『緩和ケア』	特集『死生観を育む』において、悲嘆の仕事の重要性と、思いやりへのつながりに関して現場での体験と精神分析的対象関係論の視点から考察した。	3
『本当の自己信頼とは：悟りの第三条件』	単著	2010年10月	『寺門興隆』	仏教瞑想における悟りの第三条件である疑いの超越について、自己信頼の視点から考察した。	2
『愛してるが言えない』	単著	2010年11月	『寺門興隆』	妻の死に際して伝えたいことがいえなかった事例にどのように寄り添うかについての考察。	2

※著書、学術論文、その他の別で列記してください。枠内の()の位置は分量に応じて変更してください。

所属	文学部	職名	教授	氏名	井上松永（ウィマラ）	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 『レーズンの祈り映し出されたスピリチュアリティの分析』 『家族図を動かしてコンステレーションを読む』		2010年6月 2012年8月	授業で作文した文章を質的に解析して、そこに投影された自らのスピリチュアリティについて分析する試み。 <small>家族図あるいは家系図を作成し、紙で切り抜いたコマで置き換え、生活歴で重要な出来事があった時点における状況を再現するように、配置を換えながらその時の人間関係と自分の心をふりかえる作業。</small>			
2. 作成した教科書、 教材、参考書 『おとなの自然塾』(岩波 アクティブ新書) 『体験の心理学的分析』(社団 法人ガールスカウト) 『スピリチュアルケアへの ガイド』 『終活講座2：死生観』		2003年7月 2004年 2009年4月 2014年9月	自然体験活動において呼吸への自覚を応用する事例の紹介。 ガールスカウトによる幼児の体験活動支援事業に関する分析報告。 キリスト教の窪寺氏とスピリチュアルケアの現場におけるガイドを共著した。 終末期ケアにおける死生観の重要性について解説した。			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等 「野外体験活動とスピリチュア リティー」(清里環境教育フォーラム) 「子育てという環境」(清里 環境教育フォーラム) 「呼吸を楽しむ」(慶応大学) 「身体知プロジェクト」(慶応大学) 「仏教瞑想の可能性」(国際セラピー学会) 『研究報告「体をひらく、 心をひらく」』 『子育て支援におけるスピ リチュアルケア 『専門職のためのスピリ チュアリティ』 「臨床身体学特論」		1999年11月 2001年11月 2005年11月 2006年12月 2006年8月 2008年3月 2008年11月 2010年5月 2014年9月	体験学習におけるスピリチュアリティの重要性をワーク ショップ形式で学ぶ方法を紹介して、評価を受ける。 ウィニコットの母親的環境という視点を自然体験学習や環境教育 に取り入れるための手段を紹介して、評価を受ける。 大学教育に体験学習を取り入れる試み。 大学教育にワークショップを取り入れる試み セラピーに瞑想的な自覚を応用する試み。 大学教育に身体知についての体験学習を取り入れるための 実験授業の研究報告。 スピリチュアルケア学会で子育て支援活動におけるスピ リチュアルケアの可能性について発表。 NPO法人自然育児友の会にて講座。 <small>臨床心理学大学院教育において、身体感覚をどのように臨床に活かす可能性があるかを集中講義した。</small>			
4. その他教育活動上 特記すべき事項						

学会等および社会における主な活動	
	井上
2002年4月～2008年	日本トランスパーソナル学会 常任理事
2009年～	日本トランスパーソナル学会 理事
2003年～2005年	おもちゃ図書館（山梨県増穂町）における子育て支援のボランティア活動
2004年～2005年	どんぐりクラブ（山梨県甲府市）における子育て支援のボランティア活動
2004年～2005年	子育てサポーター養成講座（山梨県増穂町）の講師
2006年～	NPO法人自然育友友の会の主催する子育て合宿のファシリテーター
2007年	NPO法人国際セラトニトレーニング協会の主催する健康法合宿の講師
2007年11月	日本認知療法学会でマインドフルネスについて講演
2008年3月	日本代替医療学会で『呼吸瞑想とスピリチュアリティ』について講演
2008年8月	世界乳幼児精神保健学会世界大会で『仏教と乳幼児期』というテーマでワークショップ
2008年9月	仏教看護・ビハーラ学会で『仏教看護におけるメタスキルとしての呼吸瞑想の可能性』について研究発表
2008年11月	日本スピリチュアルケア学会で「子育て支援におけるスピリチュアルケア」について発表
2009年5月	NPO法人自然育児友の会主催ここからミーティングにおいて『子育てはスピリチュアル』について講演、『子育て支援者のためのスピリチュアル・ワーク』をファシリテートした。
2009年6月	日本緩和医療学会で「スピリチュアルケア」のシンポジストとして子育てと仏教瞑想について講演。
2009年9月	印度学仏教学会で『小空経における空の実践構造について』研究発表。
2009年9月	宗教学会で『子育て支援活動におけるスピリチュアリティについて』研究発表。
2009年11月	日本スピリチュアルケア学会で『悲嘆における怒りの反転について』研究発表。
2009年12月	日本仏教心理学会で『四無量心とアンビバレンツ』について講演。
2010年2月	横手市主催DV予防研修会で「気づきと癒し」について講演。
2010年3月	日本財団ホスピタリティ研修会で『ケアとしてのスピリチュアリティ』について講演。
2010年5月	NPO法人自然育児友の会で『子育てはスピリチュアル』ワークショップ。
2010年7月	日本トランスパーソナル学会『スピリチュアルなケアを支えるもの』講演。
2011年5月	日本パーリ仏教文化学会で「Devatannusatiに関する一考察」を発表。
2012年4月	日本仏教心理学会副会長就任
2013年5月	パーリ学仏教文化学会で「Satipatthana-suttaにおけ
2013年10月	日本マインドフルネス学会理事就任
2013年	亀田総合病院でマインドフルネス研修4回
2014年9月	日本スピリチュアルケア学会認定指導員。
2014年9月	日本宗教学会のパネル「宗教研究と身心変容技法について」で、「身心変容技法とマインドフルネス」について研究発表。
大学行政への係わり（所属委員会）	
平成20年度	総務本部長 人権研究会 学生部協議会生涯学習講座担当
平成21年度	総務本部長 人権研究会 学生部協議会